

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
ブ20	『ひらかな盛衰記』絵尽し	資料					①元文4年カ ③慶應義塾大学図書館蔵。国立文楽劇場上演資料集〈20〉（昭和63年11月・国立劇場）に翻刻あり
ブ8	『ひらかな盛衰記』一枚番付	資料					①延享1年11月 ③西尾市立図書館岩瀬文庫蔵。国立文楽劇場上演資料集〈8〉（昭和60年4月・国立劇場）に翻刻あり
	竹本伊太夫	評判記	膚暖堂蠶梁		音曲猿口轡		①延享3年3月 ③『日本庶民文化史料集成』第7巻人形浄瑠璃（昭和50年10月・三一書房・藝能史研究会＝編）等に所収。重忠・三の口・四ノ切についての記事
	竹本七太夫						③先陣問答・樋口の名乗りの件などについて
	吉田文三郎について（仮題）	評判記	白徳斎		倒冠雑誌		①宝暦9年7月 ③『日本庶民文化史料集成』第7巻人形浄瑠璃（昭和50年10月・三一書房・藝能史研究会＝編）等に所収。松右衛門・梅ヶ枝について
	ひらかな盛衰記	短評	歡操山人		外題大評判 竹本不断桜		①宝暦9年中秋カ ③『日本庶民文化史料集成』第7巻人形浄瑠璃（昭和50年10月・三一書房・藝能史研究会＝編）等に所収
ブ8	『ひらかな盛衰記』絵入二枚番付	資料					①宝暦10年5月 ③文楽協会蔵。国立文楽劇場上演資料集〈8〉（昭和60年4月・国立劇場）に翻刻あり
	音曲口伝 *ひらかな盛衰記	芸談	順四軒	竹本播磨少掾	音曲口伝書		①安永2年9月 ③先陣問答・逆櫓・辻法印・無間の鐘について
					音曲叢書	第1編	①大正4年3月 ④巖南堂書店 ③演芸珍書刊行会＝編、昭和48年4月復刻版、『音曲口伝書』所収

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
					浄瑠璃研究文献集成		①昭和19年7月 ④北光書房 ③日本演劇文献集成第2。早稲田大学演劇博物館 日本演劇文献研究会＝編纂、『音曲口伝書』所収
					日本思想大系	61近世 芸道論	①昭和47年1月 ④岩波書店 ③郡司正勝＝校注、『音曲口伝書』所収
					芸の思想・道の思想	6近世 芸道論	①平成8年2月 ④岩波書店 ③日本思想大系新装版、『音曲口伝書』所収
	ひらかな盛衰記	評判記			古今評判 儀多百鬮貞		①安永6年6月 ③『日本庶民文化史料集成』第7巻人形浄瑠璃 (昭和50年10月・三一書房・藝能史研究会＝編) 等に所収
	竹本政太夫	評判記	八文字屋而笑		浄留利操評判 闇の礫	中	①天明1年9月 ③『日本庶民文化史料集成』第7巻人形浄瑠璃 (昭和50年10月・三一書房・藝能史研究会＝編) 等に所収。「四段目よふござりました」とあり
	豊竹嶋太夫					下	①天明1年9月 ③『日本庶民文化史料集成』第7巻人形浄瑠璃 (昭和50年10月・三一書房・藝能史研究会＝編) 等に所収。笹場は大出来との記事あり
	ひらかな盛衰記 無間鐘の齣	注釈	賽笠翁		瑠璃天狗	卷之一	①文化3年 ④塩屋平介 ③『新群書類従』第6(明治40年8月・国書刊行 会、昭和51年12月第一書房より復刻)、帝国文庫 第10篇『紀海音並木宗輔 浄瑠璃集』全(昭和4年 10月・博文館)等に収録
	*島大夫(竹本)	評判記			義太夫執心録		③『日本庶民文化史料集成』第7巻人形浄瑠璃 (昭和50年10月・三一書房・藝能史研究会＝編) 等に所収 「はたごや」～「笹引」
	*鐘大夫(豊竹)						③「妻乞」

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	*岡大夫（初世豊竹）						③「笹引」「はたごや」
	*綱大夫（初世竹本）						③三の中
	*菊大夫（豊竹）						③「勘当場」
	*三代め長門大夫（竹本）						③「笹引」
	新声館浄瑠璃人形芝居に就き	劇評	芋兵衛		東京の人形浄瑠璃		①平成3年2月 ④日本芸術文化振興会 ③演芸資料選書・5。明治28年2月東京新声館所演。初出＝「読売新聞」（明治28年2月9日）
	義太夫評判記 （其一）生駒太夫の逆櫓	劇評	鬼太郎		演芸世界	第3号	①明治34年5月 ④演芸世界社 ③竹本生駒太夫の「逆櫓」
	第四 語法の事 義太夫の詞 *対話	演出	岡鬼太郎		義太夫秘訣		①明治36年3月 ④服部書店 ③明治39年6月富田文陽堂より第2版、大正10年9月野村青雲堂より第4版発行。第三者の言を相手に告げる例
					岡鬼太郎花柳文芸名 作選	9義太 夫秘訣	①昭和55年10月 ④鳳書院 ③明治36年3月服部書店版の復刻
			近世文芸研究 叢書刊行会＝ 編		近世文芸研究叢書 第二期芸能篇25 浄 瑠璃5		①平成9年8月 ④クレス出版 ③岡鬼太郎『義太夫秘訣』、杉山其日庵『浄瑠璃 素人講釈』を収録
239、277	附録 語方の実例 ひらかな盛衰記 逆櫓の段	演出	岡鬼太郎		義太夫秘訣		①明治36年3月 ④服部書店 ③明治39年6月富田文陽堂より第2版、大正10年9月野村青雲堂より第4版発行
					岡鬼太郎花柳文芸名 作選	9義太 夫秘訣	①昭和55年10月 ④鳳書院 ③明治36年3月服部書店版の復刻
			近世文芸研究 叢書刊行会＝ 編		近世文芸研究叢書 第二期芸能篇25 浄 瑠璃5		①平成9年8月 ④クレス出版 ③岡鬼太郎『義太夫秘訣』、杉山其日庵『浄瑠璃 素人講釈』を収録

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	盛衰記 *先陣物語の段 *無間の鐘の段 *序の巻	注釈	蓼沼祐太郎・ 山沢簡＝編		義太夫難句詳解	前編	①明治37年2月 ④田沼書店
	平かな盛衰記 *笹引の段に就いて *逆櫓の段に就いて *神崎の段に就いて	解説	竹本其太夫	鶴沢名門二	浄曲百段 語り物の訳		①明治39年4月 ④其中堂書店
	堀江座盆変り興行	劇評			浪花名物 浄瑠璃雑誌	第89号	①明治43年10月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③明治43年9月 堀江座所演
	『盛衰記』の段取	解説	鈍太郎		演芸画報	第6年 第5号	①明治45年5月 ④演芸画報社
161	梶原の家（人々の性格）	考証	白壁生				③平次景高・源太景季・母延寿
161、カ232	サムライの勝利 『逆櫓』の人々の性格	鑑賞	寺田波二		演芸画報	第6年 第7号	①明治45年7月 ④演芸画報社 ③権四郎・松右衛門・お筆・およし
	第一種 平仮名盛衰記 逆櫓の段	梗概 批評	徳島県教育会		義太夫調査書		①大正2年4月 ④徳島県教育会 ③大正2年7月増補訂正再版
	第二種 平仮名盛衰記 辻法印の段						
	講壇 平仮名盛衰記逆櫓の段	解題 註釈	月廼舎掬水		浪花名物 浄瑠璃雑誌	第130 号	①大正3年4月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社
522	御霊文楽座（大正3年10月30日）	劇評			義太夫年表 大正篇		①昭和45年1月 ④「義太夫年表」（大正篇）刊行会 ③大正3年11月御霊文楽座所演。「毎日新聞」より転載
522	文楽座の十一月興行	劇評			浪花名物 浄瑠璃雑誌	第137 号	①大正3年12月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③大正3年11月御霊文楽座所演
	竹豊座の朝顔話	劇評			浪花名物 浄瑠璃雑誌	第170 号	①大正6年8月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③大正6年6月竹豊座所演（短評）

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考	
	語り方の理論 通論 * 世話時代物を語るに付いて先 づ第一に心得べき事項	研究	秋山木芳 (清)		義太夫大鑑	下巻	①大正6年12月	
	* 「間」を持つ一例						④満州日日新聞社	
	詞と地合 地合を語るに就いての注意の要 点 * 『音曲口伝書』の一節						③一例「松右衛門」	
			近世文芸研究 叢書刊行会＝ 編		近世文芸研究叢書 第二期芸能篇23 浄 瑠璃3		③「松右衛門内の段」	
	御霊文楽座（大正8年9月26日）	劇評			義太夫年表 大正篇		①平成9年8月 ④クレス出版 ③秋山清『義太夫大鑑』を収録	
	ひらかな盛衰記 三段目切 松右衛門逆櫓の段	演出	杉山其日庵 (茂丸)		黒白	56号	①大正10年11月 ④黒白発行所	
47、125、 161、239、 ブ8					浄瑠璃素人講釈		①大正15年12月 ④黒白発行所 ③昭和50年3月鳳出版より復刻	
					近世文芸研究 叢書刊行会＝ 編	近世文芸研究叢書 第二期芸能篇25 浄 瑠璃5		①平成9年8月 ④クレス出版 ③岡鬼太郎『義太夫秘訣』、杉山其日庵『浄瑠璃 素人講釈』を収録
					杉山其日庵＝ 著／内山美樹 子・桜井弘＝ 編	浄瑠璃素人講釈	(上)	①平成16年10月 ④岩波書店 ③岩波文庫。注釈付載
	津の布四と逆櫓	劇評			浪花名物 浄瑠璃雑誌	第236 号	①大正13年11月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③大正13年11月 御霊文楽座所演	
	ひらかな盛衰記 四段目切 神崎揚屋の段	演出	杉山其日庵 (茂丸)		黒白	100号	①大正15年2月 ④黒白発行所	

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
47、161					浄瑠璃素人講釈		①大正15年12月 ④黒白発行所 ③昭和50年3月鳳出版より復刻
			近世文芸研究 叢書刊行会＝ 編		近世文芸研究叢書 第二期芸能篇25 浄 瑠璃5		①平成9年8月 ④クレス出版 ③岡鬼太郎『義太夫秘訣』、杉山其日庵『浄瑠璃 素人講釈』を収録
522			杉山其日庵＝ 著／内山美樹 子・桜井弘＝ 編		浄瑠璃素人講釈	(上)	①平成16年10月 ④岩波書店 ③岩波文庫。注釈付載
カ170	ひらかな盛衰記	解説 梗概	黒木勘蔵＝校 訂／日本名著 全集刊行会＝ 編輯		日本名著全集 江戸 文芸之部	第6巻 浄瑠璃 名作集 上巻	①昭和2年12月 ④日本名著全集刊行会
	近松以後名作解題 *逆櫓松矢箆梅ひらかな盛衰記		黒木勘蔵		近松以後		①昭和17年9月 ④大東出版社 ③大東名著選42
490	義太夫虎之巻 平仮名盛衰記 三段目切 逆櫓の段	演出	胴摺帽人(杉 山茂丸)		黒白	12巻7 号	①昭和3年7月 ④黒白発行社
			近世文芸研究 叢書刊行会＝ 編		近世文芸研究叢書 第 二期 芸能篇25 浄瑠 璃5		①平成9年8月 ②クレス出版 ③岡鬼太郎『義太夫秘訣』、杉山其日庵『浄瑠璃 素人講釈』を収録
	ひらかな盛衰記 三段目切 逆櫓の段		杉山其日庵＝ 著／内山美樹 子・桜井弘＝ 編		浄瑠璃素人講釈	(下)	①平成16年11月 ④岩波書店 ③岩波文庫。注釈・解題・解説・人名索引付載
490	文楽新聞評抜萃 三、昭和四年七月 *その第五回 下手な旧劇より は	劇評	三宅周太郎		文楽の研究		①昭和5年6月 ④春陽堂 ③昭和4年7月東京新橋演舞場所演

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	古靱太夫『堀川』の解釈－五月の文楽座と狂言の立て方－	劇評	石割松太郎		演芸月刊	第12輯	①昭和5年5月 ④演芸月刊社 ③昭和5年5月四ツ橋文楽座所演（短評）
	文楽の二の替り	劇評	渋沢竹洗		演芸画報	第25年 第8号	①昭和6年8月 ④演芸画報社 ③昭和6年7月東京明治座所演
	文楽九月興行	劇評	たかきや生		浪花名物 浄瑠璃雑誌	第305号	①昭和6年9月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和6年9月四ツ橋文楽座所演
	第一編 芸の生涯 四、稲荷座時代 *河庄か逆櫓か	芸談	木谷正之助 (蓬吟)		五世竹本弥太夫 芸 の六十年		①昭和9年10月 ④私家版 ③明治29年12月稲荷座
プ8、277	第二編 人物と芸格 一、弥太夫の人と芸と 二、山桜と逆櫓			江上修次郎			③(5)竹本弥太夫の「逆櫓」
	三、掛合のイキのうまさ			(6)竹本土 佐太夫			
	五、逆櫓に驚く			(2)豊竹古 靱太夫(豊竹 山城少掾)			
	文楽座の五月興行	劇評			浪花名物 浄瑠璃雑誌	第371号	①昭和13年6月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③昭和13年5月四ツ橋文楽座所演
	文楽人形浄瑠璃	劇評	安部豊		演芸画報	第32年 第8号	①昭和13年8月 ④演芸画報社 ③昭和13年7月東京新橋演舞場所演（一言）
	九、文楽座へ復帰 *初役のおふで	芸談	鴻池幸武＝編	(1)吉田栄 三	吉田栄三自伝		①昭和13年11月 ④相模書房 ③昭和23年5月武智鐵二の序等を加え和敬書店より再版。明治41年6月御霊文楽座のこと
47、161	十、松竹さんになってから *梅ヶ枝の型						③大正3年11月御霊文楽座のこと

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	珍しい南北座の梅が枝	見たまま	安部豊		演芸画報	第33年 第6号	①昭和14年6月 ④演芸画報社 ③池田三国主宰の南北座浄るり人形芝居「神崎揚屋の段」見たまま
	純西風の浄瑠璃 ひらかな盛衰記三段目	解説		八京舎近江翁	浪花名物 浄瑠璃雑誌	第393 号	①昭和15年9月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社
	批評と追悼 *古靱固くなる	劇評	三宅周太郎		続文楽の研究		①昭和16年11月 ④創元社 ③創元選書84。昭和15年9月東京新橋演舞場所演 (一言)
新編 続文楽の研究					①昭和23年11月 ④創元社 ③創元選書84		
	丸本の中の老人達	鑑賞	森ほのほ		浪花名物 浄瑠璃雑誌	第403 号	①昭和16年10月 ④浪花名物 浄瑠璃雑誌社 ③権四郎
ブ20	文耕堂の浄瑠璃	解説	増田七郎		国語と国文学	第18年 12号	①昭和16年12月 ④至文堂
	歌舞伎にあらはれた義理人情 新口村と逆櫓の松一義理と人情 の一断想一	評論	林和		演芸画報	第36年 第1号	①昭和17年1月 ④演芸画報社
	鶴沢叶・聞書 *初代桐竹紋十郎さん	芸談	茶谷半次郎	(4) 鶴沢叶 (2) 鶴沢清八	聞書 芸と文学		①昭和17年6月 ④全国書房 ③『文芸春秋』昭和7～8年及び『週刊朝日』昭和9年掲載分をまとめたもの。(1) 桐竹紋十郎のお筆
文楽聞書					①昭和21年5月 ④全国書房		
	第二章 戯曲形態論 二 操浄瑠璃系の戯曲形態 (七) 合作時代の戯曲形態 〔A〕時代物系の代表作 1 「ひらかな盛衰記」の形態	研究	中村吉蔵		日本戯曲技巧論		①昭和17年7月 ④中央公論社

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	第五章 劇的性格論 二 時代物系の劇的性格 (一) 操浄瑠璃系時代物の劇的性格 19「ひらがな盛衰記」の劇的性格						
	文楽の人形浄瑠璃	劇評	安部豊		演芸画報	第37年 第1号	①昭和18年1月 ④演芸画報社 ③昭和17年12月 東京新橋演舞場所演
	操浄瑠璃に於ける「謎・判じ物」(中)	考察	近石泰秋		浪花名物 浄瑠璃雑誌	第423 号	①昭和18年11月 ④浄瑠璃雑誌社
	第二篇 趣向の研究 第四章 謎・判じ物				操浄瑠璃の研究—そ の戯曲構成につい て—		①昭和36年3月 ④風間書房
	三味線の話 * 三味線の拵へ	芸談	鴻池幸武	(1) 鶴沢道 八	道八芸談		①昭和19年1月 ④私家版 ③武智鐵二の注解を付載して昭和62年11月 ぺりか ん社より復刊、日本芸術名著選4。平成28年11月 ぶんがく社よりぺりかん社版を復刻(花もよ叢書 009、文庫版)。「神崎揚屋」のサワリ
	カシラ「源太」と「若男」に就 て	解説	山口廣一		文楽の鑑賞		①昭和19年1月 ④畝傍書房 ③昭和25年4月 雪月花書房より再版
	人形 人形雑話 人形修業の半生 * 師匠と私	芸談	谷口正太郎	(2) 桐竹紋 十郎	文楽の人形と三味線		①昭和19年10月 ④文楽研究会 ③初めてお筆を勤めた時のこと
277、522	「神崎揚屋」の梅ヶ枝	演出	大西重孝		幕間	15号 (別冊 「文楽 号」)	①昭和22年7月 ④和敬書店 ③昭和21年11月 四ツ橋文楽座所演
	文楽の戦後史 * 文楽の次の時代	劇評	大西重孝		文楽人形の演出		①昭和49年8月 ④大西重孝著作刊行会 ③昭和21年11月 四ツ橋文楽座若手向上会所演

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	師走の京阪	劇評	高谷伸		文楽	第3巻 第2号	①昭和23年2月 ④誠光社 ③昭和22年12月 四ツ橋文楽座所演（一言）
	芝居の中の女性 XI老女のプロフィール 「ひらかな盛衰記」の延寿	鑑賞	高岡宣之		歌舞伎の女性		①昭和24年1月 ④新府書房
	歌舞伎百趣 84ひらがな盛衰記（＝幕）「無 間鐘」「源太」	解説	堂本寒星		歌舞伎百趣		①昭和24年7月 ④河原書店
490、623	人形の『逆櫓』	演出	大西重孝		観照	第23号	①昭和24年8月 ④観照社 ③（1）吉田栄三の舞台より
	文楽・残光の美	劇評	安藤鶴夫		安藤鶴夫作品集	III 芸	①昭和45年12月 ④朝日新聞社 ③平成9年3月復刻版。昭和24年10月東京帝国劇場 所演（一言）。初出＝「スクリーン・ステージ」
	逆櫓の人々	評論	池田弥三郎		演劇界	第7巻 第10号	①昭和24年10月 ④日本演劇社
522	続 栄三の憶ひ出（その一）－ 光造に訊く－	芸談	茶谷半次郎	(3) 吉田光 造	幕間	第4巻 第10号	①昭和24年10月 ④和敬書店 ③昭和18年11月 四ツ橋文楽座所演「神崎揚屋」の 梅ヶ枝を演じるにあたって
277	私の芸談 *逆櫓	芸談	(4) 竹本津 大夫		幕間	第5巻 第5号	①昭和25年5月 ④和敬書店
	文楽の安定感	劇評	沼艸雨				③昭和25年4月 四ツ橋文楽座所演
47、125、 161	ひらがな盛衰記	解説 梗概	近藤忠義		増補改訂 日本文学大 辞典	第6巻	①昭和26年4月 ④新潮社 ③藤村作＝編纂
	文楽人形用語（一） *カンヌキ	演出	大西重孝／三 村幸一＝撮影		舞台展望	第4号	①昭和26年10月 ④舞台すがた社 ③松右衛門のカンヌキ

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	3 人形の基本的な型 *カンヌキ		大西重孝		文楽		①昭和34年3月 ④講談社 ③大西重孝・吉永孝雄＝解説、三村幸一＝写真、 文楽座＝編
	2 人形の基本 人形の型（演技） *カンヌキ				文楽人形の芸術		①昭和43年5月 ④演劇出版社
	文楽人形用語（七） *平右衛門と樋口	演出	大西重孝／三 村幸一＝撮影		舞台展望	第2巻 第4号	①昭和27年4月 ④舞台すがた社 ③「逆艦」の樋口ノ次郎兼光の名乗りの型
	3 人形の基本的な型 *ひぐち		大西重孝		文楽		①昭和34年3月 ④講談社 ③大西重孝・吉永孝雄＝解説、三村幸一＝写真、 文楽座＝編
	2 人形の基本 人形の型（演技） *樋口				文楽人形の芸術		①昭和43年5月 ④演劇出版社
	文楽人形用語（十） *あぶらや	演出	大西重孝／三 村幸一＝撮影		舞台展望	第2巻 第7号	①昭和27年7月（8月号） ④舞台すがた社 ③松右衛門のあぶらや
	3 人形の基本的な型 *あぶらや		大西重孝		文楽		①昭和34年3月 ④講談社 ③大西重孝・吉永孝雄＝解説、三村幸一＝写真、 文楽座＝編
	2 人形の基本 人形の型（演技） *あぶらや				文楽人形の芸術		①昭和43年5月 ④演劇出版社
	文楽人形用語（十一） *団七走り・韋駄天	演出	大西重孝／三 村幸一＝撮影		舞台展望	第2巻 第8号	①昭和27年8月（9月号） ④舞台すがた社 ③樋口の団七走り
	3 人形の基本的な型 *韋駄天・団七走り		大西重孝		文楽		①昭和34年3月 ④講談社 ③大西重孝・吉永孝雄＝解説、三村幸一＝写真、 文楽座＝編

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	2 人形の基本 人形の型（演技） * 団七走り				文楽人形の芸術		①昭和43年5月 ④演劇出版社
	文楽人形用語（十七） * マキ足	演出	大西重孝／三 村幸一＝撮影		舞台展望	第3巻 第4号	①昭和28年4月 ④舞台展望社 ③権四郎のマキ足
	2 人形の基本 人形の型（演技） * マキ足		大西重孝		文楽人形の芸術		①昭和43年5月 ④演劇出版社
	文楽人形用語（十九） * 髪洗ひ	演出	大西重孝／三 村幸一＝撮影		舞台展望	第3巻 第6号	①昭和28年6月 ④舞台展望社 ③樋口の髪洗ひ
	2 人形の基本 人形の型（演技） * 髪洗ひ		大西重孝		文楽人形の芸術		①昭和43年5月 ④演劇出版社
	「ひらかな盛衰記」解説		吉永孝雄		B K 邦楽大会プロ ラム		①昭和28年10月 ④松竹事業部 ③『吉永孝雄の私説昭和の文楽』（平成7年5月・ 和泉書院）に拠る
	竹田出雲の襲名と作品	研究	祐田善雄		近世文藝	創刊号	①昭和29年10月 ④日本近世文学会
					浄瑠璃史論考		①昭和50年8月 ④中央公論社 ③浄瑠璃作品要説〈4〉竹田出雲篇（昭和61年2 月・国立劇場）に再掲
	文楽合同公演を聴く	劇評	内海繁太郎		幕間	第10巻 第1号	①昭和30年1月 ④和敬書店 ③昭和29年11月 東京東横ホール所演（一言）
	文楽だより 近松の「長町女腹切」	劇評	大西重孝		演劇界	第13巻 第5号	①昭和30年5月 ④演劇出版社 ③昭和30年4月 四ツ橋文楽座所演（短評）
	上げ潮に乗り初めた因会文楽	劇評	大鋸時生		幕間	第10巻 第5号	①昭和30年5月 ④和敬書店 ③昭和30年4月 四ツ橋文楽座所演

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽合同公演の華 妹背山	劇評	内海繁太郎		幕間	第11巻 第12号	①昭和31年12月 ④和敬書店 ③昭和31年10月 東京三越劇場（合同）所演（短評）
	團七首から文七首へー七月興行の楽しさー *逆櫓	鑑賞	吉永孝雄		道頓堀文楽座プログラム		①昭和32年7月 ④道頓堀文楽座 ③（1）鶴沢道八の「逆櫓」
490、547	綱太夫で光る夏祭の泥場と平仮名の逆櫓	劇評	吉永孝雄		幕間	第12巻 第8号	①昭和32年8月 ④和敬書店 ③昭和32年7月 四ツ橋文楽座所演
	文楽の通し二つ	劇評	安藤鶴夫		芸について		①昭和37年5月 ④青蛙房 ③昭和32年12月 週刊朝日『立見席』掲載分を転載、昭和32年11月 東京新橋演舞場所演
					安藤鶴夫作品集	Ⅲ 芸	①昭和45年12月 ④朝日新聞社 ③『芸について』所収
	ひらがな盛衰記研究	解説 研究	藤田洋		伝統演劇	第12号	①昭和33年12月 ④伝統演劇研究会 ③特集〈丸本歌舞伎研究（Ⅰ）〉
	1 浄瑠璃の作者と作品 全盛期の竹本座の作者 松田文耕堂 *ひらがな盛衰記	解説 写真	大西重孝・吉永孝雄		文楽		①昭和34年3月 ④講談社 ③三村幸一＝写真
	2 名作の舞台 文耕堂他 *ひらかな盛衰記						
	3 人形の基本的な型 *カンヌキ *ひぐち *あぶらや *韋駄天・団七走り			大西重孝			
カ170、カ232、239、ブ8	ひらがな盛衰記	解説 梗概	河竹繁俊		演劇百科大事典	第4巻	①昭和36年3月 ④平凡社 ③河竹繁俊＝編著代表

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
カ328、カ 394					総合日本戯曲事典		①昭和39年2月 ④平凡社 ③河竹繁俊＝編纂
	関西の焦点 さながら喜劇祭	劇評	北岸佑吉		演劇界	第21巻 第9号	①昭和38年9月 ④演劇出版社 ③昭和38年7月道頓堀文楽座所演（一言）
	でんでん虫五十年 *文楽復帰 織大夫襲名	芸談	(8) 竹本綱 大夫		でんでん虫		①昭和39年6月 ④布井書房 ③襲名の演目
	でんでん虫夜話 *師恩						③(5) 竹本組太夫の「逆櫓」の稽古
	芸談 綱大夫の代々						③「逆櫓」
	三の切の扱いは本格的に	劇評	如月青子		演劇界	第22巻 第7号	①昭和39年7月 ④演劇出版社 ③昭和39年6月東京三越劇場所演
	折口先生と笹引き	鑑賞	三宅三郎		芸能	第6巻 第9号	①昭和39年9月 ④芸能発行所 ③昭和39年6月東京三越劇場所演に触れる
	ひらがな盛衰記	グラフィ ア	郡司正勝＝編 著／三村幸一 ＝撮影		文楽		①昭和41年10月 ④集英社 ③カラーコンパクト1009。二段目・四段目
	怪奇もの (四三) 梅ヶ枝無間の鐘の実説	考証	荒川秀俊		新・江戸の実話<実事 譚の世界>		①昭和41年10月 ④桃源社 ③桃源選書
					江戸の実話 <実事譚 の世界>	2	①昭和51年5月 ④桃源社
	桐竹紋十郎 第二章 2	芸談	安藤鶴夫		文楽◎桐竹紋十郎		①昭和42年1月 ④求龍堂（限定版） ③中西敬二郎「二世桐竹紋十郎年譜」を収録。初 役のお筆
					安藤鶴夫作品集	Ⅲ芸	①昭和45年12月 ④朝日新聞社 ③平成9年3月復刻版。『文楽 日本の伝統』『古 鞆芸談』『桐竹紋十郎』『芸と人』『芸につい て』他を収録

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
					文楽 芸と人		①昭和55年1月 ④朝日新聞社 ③朝日選書150。『文楽 日本の伝統』『古靱芸談』『桐竹紋十郎』を収録
	コトバの分解と人形の直情性	鑑賞	山口廣一		朝日座プログラム		①昭和43年7月 ④文楽協会 ③(5)竹本弥太夫の「逆櫓」
	関西劇場街採点 文楽と若松会	劇評	北岸佑吉		演劇界	第26巻 第9号	①昭和43年9月 ④演劇出版社 ③昭和43年7月朝日座所演
	ひらがな盛衰記	梗概	戸板康二		演劇界	第27巻 第6号	①昭和44年5月 ④演劇出版社 ③5月号臨時増刊「歌舞伎狂言の鑑賞1」
	文楽の首シリーズ⑬	演出	斉藤清二郎		国立劇場文楽公演解 説書	第13回	①昭和45年2月 ④国立劇場事業部 ③船頭権四郎・梶原源太景季・腰元千鳥・船頭松 右衛門実は樋口兼光・鎌田隼人
	鑑賞ガイド1・2	鑑賞	(Y)				
522、547	『盛衰記』の通しと『酒屋』	劇評	千葉胤男		演劇界	第28巻 第3号	①昭和45年3月 ④演劇出版社 ③昭和45年2月東京国立劇場小劇場所演
	七〇年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九七 一年版	①昭和46年5月 ④早稲田大学出版部 ③昭和45年2月東京国立劇場小劇場所演
	一九七〇年の文楽				文楽 二十世紀後期 の輝き—劇評と文楽 考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	劇との対話 器具としての肉体—人形浄瑠璃 『ひらがな盛衰記』—	評論	種村季弘		海	11号	①昭和45年4月 ④中央公論社
277、547	「笹引」と「逆櫓」の演奏につ いて	演出	山口廣一		ひらかな盛衰記		①昭和45年（レコード発売） ④CBSソニーレコード ③「ひらかな盛衰記」（CBSソニーレコードS OGC17006～17007）の解説より

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	演目解説 ひらかな盛衰記 逆櫓の段	解説	武智鐵二		土門拳 文楽		①昭和47年12月 ④駿々堂出版 ③別冊『土門拳文楽 その背景』に収録
	ひらかな盛衰記 松右衛門（マ マ）の段・逆櫓の段				定本・武智歌舞伎	③文楽 舞踊	①昭和54年8月 ④三一書房
	ひらかな盛衰記 逆櫓の段				土門拳全集	6文楽	①昭和60年11月 ④小学館 ③〈見所〉は省く
	「ひらかな盛衰記」三段目	研究	乙葉弘		学芸国語国文学	第7号	①昭和47年12月 ④東京学芸大学国語国文学会
	一章 文楽芸術の魔力 * 文楽の芸術	芸談	吉永孝雄	(4) 竹本津 大夫	カラー文楽の魅力		①昭和49年1月 ④淡交社 ③三村幸一＝写真。(3) 鶴沢清六の「笹引」
	文楽と初代栄三 * 文楽の場合	解説	大西重孝		文楽人形の演出		①昭和49年8月 ④大西重孝著作刊行会 ③(3) 吉田光造が初役で梅ヶ枝を遣った時の絵 稽古
	手摺 四 時代物＝名場面 ひらかな盛衰記	解説	山田庄一		文楽 人形の美学		①昭和49年10月 ④毎日出版社 ③森晋六・榎本由喜雄・山田庄一・佐藤鉄彌＝編 集／林嘉吉＝写真。三段目「逆櫓」・四段目「神 崎揚屋」
490	鑑賞の手引き 逆櫓の段	評論	山口廣一		文楽三味線 鶴沢寛 治の芸		①昭和49年（レコード発売） ④CBSソニー ③(4) 竹本津太夫・(6) 鶴沢寛治の演奏を収 録、レコード解説書、詞章・「超俗“文楽の三味 線” 一人・六世鶴沢寛治の芸と人―」（山口廣 一）を付載
	今月の演し物と遺跡 * 『ひらかな盛衰記』	史跡	牧村史陽		朝日座プログラム		①昭和50年10月 ④文楽協会 ③逆櫓之松
	ひらかな盛衰記	鑑賞	大鋸時生・三 村幸一		文楽―鑑賞のため に―		①昭和50年10月 ④保育社 ③カラーボックス338

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
547	津大夫、語り見事	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き—劇評と文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和51年3月東京国立劇場小劇場所演。初出＝「読売新聞」昭和51年3月24日
	津大夫の気迫	劇評	福本和生		演劇界	第34巻 第5号	①昭和51年5月 ④演劇出版社 ③昭和51年3月東京国立劇場小劇場所演
	古典は消えて行く、されどレコードに残された名人芸—若き日の竹本綱太夫	評論	武智鐵二		月刊78	第2巻 第6号	①昭和51年7月 ④鎌倉書林 ③(8)竹本綱太夫の「逆鱗」
定本・武智歌舞伎					③文楽舞踊	①昭和54年8月 ④三一書房	
	文楽名作鑑賞 ひらがな盛衰記	解説梗概	山田庄一		文楽入門		①昭和52年6月 ④文研出版 ③文研の芸能鑑賞シリーズ
					文楽	①平成2年1月 ④ぎょうせい ③伝統芸能シリーズ3。『文楽入門』の改訂版	
	今月の演し物と遺跡 *ひらかな盛衰記	史跡	牧村史陽		朝日座プログラム		①昭和52年7月 ④文楽協会 ③神崎のくるわ
	関西劇信 唄啓劇団と天知 茂	劇評	大鋸時生		演劇界	第35巻 第9号	①昭和52年9月 ④演劇出版社 ③昭和52年7月朝日座所演(一言)
	浄瑠璃における大序—その成立と崩壊—	研究	井野辺潔		大阪音楽大学研究紀要	第16号	①昭和53年2月 ④大阪音楽大学 ③昭和45年2月東京国立劇場小劇場における(2)野沢勝平(3)野沢喜左衛門の大序の演奏
					浄瑠璃史考説		①平成3年2月 ④風間書房

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	人形の型⑥ 「蹴り足」	演出	(I) / 青木 信二＝撮影		国立劇場文楽公演解 説書	第44回	①昭和53年2月 ④国立劇場事業部 ③「逆櫓」の蹴飛ばし
	鑑賞ガイド 登場する実在人物	演出 考証	(Y) (午)		国立劇場文楽公演解 説書	第48回	①昭和54年2月 ④国立劇場事業部
277	浄るり作者の眼－松右衛門・梅 ヶ枝の描き方－	研究	原道生				
	せっかくの「通し」なのに「盛 衰記」興そいだ主役交代やカッ ト	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期 の輝き－劇評と文楽 考－		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和54年2月東京国立劇場小劇場所演。初出＝ 「読売新聞」昭和54年2月17日
	美酒に酔う『神崎揚屋』	劇評	清水一朗		演劇界	第37巻 第4号	①昭和54年4月 ④演劇出版社 ③昭和54年2月東京国立劇場小劇場所演
	ひらかな盛衰記	梗概 演出	武智鐵二		演劇界	第37巻 第12号	①昭和54年10月 ④演劇出版社 ③10月号臨時増刊「歌舞伎名作案内2」。「竹本 播磨少掾音曲話口伝書」からの引用あり
					歌舞伎名作事典		①昭和58年3月 ④演劇出版社 ③平成8年8月改訂新版
277	『ひらかな盛衰記』初演時の資 料	資料			義太夫年表 近世篇	第1巻	①昭和54年11月 ④八木書店
	『ひらかな盛衰記』の人々 無間の鐘をめぐる	鑑賞 研究	藤井康雄 日野龍夫		国立劇場歌舞伎公演 解説書	第101 回	①昭和54年12月 ④国立劇場事業部
	ひらかな盛衰記 史蹟を往く	史跡					
	文楽の舞台から ひらかな盛衰記	写真					
	木曾谷の人々－義仲と四天王	考証	(T)				
	逆櫓の松 福島区ふる里史跡めぐり（福島 村篇）	史跡	加美宏		逆櫓の松 福島区ふ る里史跡めぐり（福 島村篇）		①昭和55年8月 ④大阪福島ライオンズクラブ ③非売品

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	この公演ゆかりの地 逆櫓の松	史跡			朝日座プログラム		①昭和56年7月 ④文楽協会
	四世鶴澤重造 覚え書き その三 忘れえぬこと	芸談	小高裕子＝文 責	(4) 鶴沢重 造	横浜文楽同好会会報	第9号	①昭和58年1月 ④横浜文楽同好会 ③昭和5年5月四ツ橋文楽座所演
					文楽	第2号	①昭和59年2月 ④「文楽」編集部
	朝日会館での公演	芸談	田結荘哲治	(4) 竹本津 大夫	文楽三代 竹本津大 夫聞書		①昭和59年4月 ④大阪書籍 ③朝日カルチャーブックス35。(2) 竹本七五三 太夫の「逆櫓」での語り間違い
522、547	ひらがな盛衰記	解説 梗概	内山美樹子		日本古典文学大辞典	第5巻	①昭和59年10月 ④岩波書店
	「ひらかな盛衰記」の歌舞伎化	解説	榎藤芳一		国立劇場歌舞伎公演 解説書	第128 回	①昭和59年11月 ④国立劇場
	文楽の舞台から ひらかな盛衰記	写真					
	竹本文字大夫この一年	芸談		(9) 竹本文 字大夫 (7) 竹本 住太夫)	文楽	第3号	①昭和60年2月 ④「文楽」編集部 ③(6) 竹本住太夫の「逆櫓」について
	九、父住大夫のこと *人間国宝	解説	(7) 竹本住 大夫・和多田 勝		文楽説き語り 言う て暮しているうちに		①昭和60年4月 ④創元社
	假名書きの源平軍記	鑑賞	戸板康二		国立文楽劇場文楽公 演解説書	第7回	①昭和60年4月 ④国立文楽劇場 ③逆櫓の松
	「ゆかりの地」あれこれ 松右衛門は立役の雛型一玉男	史跡 芸談	田結荘哲治 川崎一朗	(1) 吉田玉 男			
	七世竹本住大夫誕生	劇評	富岡泰		演劇界	第43巻 第6号	①昭和60年5月 ④演劇出版社 ③昭和60年4月国立文楽劇場所演
	人形の型㊥ 「癩」	演出	(I) / 岩田 彰＝撮影		国立劇場文楽公演解 説書	第73回	①昭和60年5月 ④国立劇場 ③梅ヶ枝の癩

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	心打つ新鮮さ「絵本太功記」	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き—劇評と文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和60年5月東京国立劇場小劇場所演。初出＝「読売新聞」昭和60年5月15日
	国立文楽劇場開場一周年記念 七世竹本住大夫襲名披露 文楽 五月公演	グラフィ ア			演劇界	第43巻 第8号	①昭和60年7月 ④演劇出版社 ③昭和60年5月東京国立劇場小劇場所演
	初心の『逆櫓』、充実の『太 十』	劇評	富岡泰				
	八五年の文楽	劇評	内山美樹子		演劇年報	一九八 六年版	①昭和61年5月 ④早稲田大学出版部 ③昭和60年4月国立文楽劇場・5月東京国立劇場小 劇場所演
	一九八五年の文楽				文楽 二十世紀後期の輝き—劇評と文楽考—		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部
	文楽の名作 七四、偶然の身替りと必死の執 念 [ひらかな盛衰記]	鑑賞	権藤芳一		文楽の世界		①昭和60年6月 ④講談社
	人形浄瑠璃文楽の上演形態をめぐって	評論	内山美樹子		日本演劇学会紀要	24	①昭和61年1月 ④日本演劇学会 ③省略台本について
	吉田玉男この一年	芸談		(1) 吉田玉 男	文楽	第4号	①昭和61年2月 ④「文楽」編集部 ③昭和60年4月国立文楽劇場・5月東京国立劇場小 劇場所演の松右衛門
277、411、 623	ひらかな盛衰記	解説 梗概	林久美子・阪 口弘之		浄瑠璃作品要説	〈4〉 竹田出 雲篇	①昭和61年2月 ④国立劇場 ③『浄瑠璃史論考』（①昭和50年8月④中央公論 社）より転載
	竹田出雲の襲名と作品	研究	祐田善雄				

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	第一章 『一谷嫩軍記』三の切・熊谷陣屋の段 十「藤の局は御声（二七の25）～堅固で居たな満足やと（三三の15）」	芸談	(4) 竹本津大夫・津大夫を囲む研究会	(4) 竹本津大夫・竹沢団七	四世竹本津大夫芸話		①昭和61年7月 ④白水社 ③日本芸能セミナー文楽の音楽第一部。「逆櫓」の段切の舟歌
	第五章 要素の様式把握 二節 音高語法 五節 時間語法 七節 音量語法	研究	山田智恵子		義太夫節の様式展開		①昭和61年11月 ④アカデミア・ミュージック ③井野辺潔・横道萬里雄・他＝著
	第八章 太夫様式 二節 竹本播磨少掾		茂手木潔子 垣内幸夫 井野辺潔				
	第三部 様式 三、竹本播磨少掾・竹本政太夫の個人様式				浄瑠璃史考説		①平成3年2月 ④風間書房
	第八章 太夫様式 三節 竹本大和掾	研究	垣内幸夫		義太夫節の様式展開		①昭和61年11月 ④アカデミア・ミュージック ③井野辺潔・横道萬里雄・他＝著
	楽譜《ひらかな盛衰記・松右衛門内》より	採譜	山田智恵子				③ (7) 竹本住太夫・(4) 野沢錦糸＝演奏
	楽譜《ひらかな盛衰記・神崎揚屋》より		徳丸吉彦			③ (8) 竹本綱太夫・(2) 野沢喜左衛門＝演奏	
						③ (4) 竹本越路太夫・鶴沢清治＝演奏	
	Ⅲ音で楽しむ名曲の数々 6不思議な音階	鑑賞	茂手木潔子		文楽 声と音と響き		①昭和63年1月 ④音楽之友社 ③「逆櫓」
	人形のいろいろ⑩ 「船頭松右衛門」	演出	(い) / 飯村隆＝撮影		国立劇場文楽公演解説書	第85回	①昭和63年9月 ④国立劇場
	鑑賞ガイド1・2	鑑賞	岡田聰				
	『ひらかな盛衰記』に寄せて 絵巻にみる登場人物 「平家物語絵巻」より	解説 考証	今尾哲也				③ (財) 林原美術館蔵。国立文楽劇場第27回文楽公演解説書(昭和63年11月)に再掲
	「ひらかな盛衰記」通し上演	劇評	内山美樹子		文楽 二十世紀後期の輝き一劇評と文楽考一		①平成22年2月 ④早稲田大学出版部 ③昭和63年9月東京国立劇場小劇場所演。初出＝「読売新聞」昭和63年9月13日

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	人形の効果・浄瑠璃の醍醐味 たっぷり	グラフィ ア鑑賞			演劇界	第46巻 第11号	①昭和63年10月 ④演劇出版社 ③昭和63年9月東京国立劇場小劇場所演
	十年振りの『ひらかな盛衰記』	劇評	富岡泰				
	文楽の『BUNRAKU』化	評論	富岡泰		歌舞伎 研究と批評	2	①昭和63年12月 ④リプロポート ③歌舞伎学会＝編。昭和63年9月東京国立劇場小 劇場所演
ブ20、623	「ひらかな盛衰記」の上演史	資料	(S)		国立文楽劇場上演資 料集	20	①昭和63年11月 ④国立劇場 ③国立文楽劇場調査養成課調査資料係＝編。全項 書き下ろし
ブ20	「ひらかな盛衰記」全段のあら すじ	梗概					
ブ20	「ひらかな盛衰記」の時間	考証	(N)				
ブ20	「ひらかな盛衰記」の音楽―三 段目・四段目を中心に―	研究	山田智恵子				
ブ20	「ひらかな盛衰記」論―勇士と しての救済と鎮魂―		黒石陽子				
	第三章 文耕堂の作劇法―奇抜 な発想と歴史へのまなざし― 第一節 『ひらかな盛衰記』 論―勇士としての救済と鎮魂―				近松以後の人形浄瑠 璃		①平成19年2月 ④岩田書院 ③近世史研究叢書18
	絵巻にみる登場人物 「平家物語絵巻」より	考証			国立文楽劇場文楽公 演解説書	第27回	①昭和63年11月 ④国立文楽劇場 ③(財)林原美術館蔵
	逆櫓について		松木哲				①昭和63年11月 ④国立文楽劇場
	江口・神崎の遊女		邦光史郎				
	稽古中にも泣いた……権四郎の 情 「ひらかな・松右衛門内の 段」―竹本住大夫	芸談	川崎一朗	(7) 竹本住 大夫			
	「ゆかりの地」あれこれ	史跡	田結荘哲治				

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考	
	玉男の松右衛門と越路の「神崎揚屋」	劇評	田結莊哲治		演劇界	第46巻 第13号	①昭和63年12月 ④演劇出版社 ③昭和63年11月 国立文楽劇場所演	
	1年間の舞台から一鑑賞の手引きとして一 *『ひらかな盛衰記』笹引きの段	芸談	富岡泰＝聞き手	(8) 竹沢団六 (7) 鶴沢寛治)	文楽	第7号	①平成1年2月 ④「文楽」編集部 ③昭和63年9月 東京国立劇場小劇場・11月 国立文楽劇場所演に因んで	
	*『ひらかな盛衰記』源太勘当の段			(5) 鶴沢燕三				
	*『ひらかな盛衰記』神崎揚屋の段			吉村暢子＝聞き手				(4) 竹本越路大夫
623	*『ひらかな盛衰記』松右衛門			(1) 吉田玉男				
	八八年の文楽	評論	内山美樹子		演劇年報	一九八九年版 終刊号	①平成1年5月 ④早稲田大学出版部 ③昭和63年9月 東京国立劇場小劇場・11月 国立文楽劇場所演の構成について	
	一九八八年の文楽			文楽 三十世紀後期の輝き一劇評と文楽考一				
	『ひらかな盛衰記』序切の意義一木曾義仲の解釈をめぐって一	研究	黒石陽子		歌舞伎 研究と批評	3	①平成1年7月 ④リポポート ③歌舞伎学会＝編	
623	第三章 文耕堂の作劇法一奇抜な発想と歴史へのまなざし一 第二節 『ひらかな盛衰記』序切の意義一木曾義仲の解釈をめぐって一			近松以後の人形浄瑠璃				
	第三章 簀助の世界 * 文楽に生きる女たち	芸談	(3) 吉田簀助		頭巾かぶって五十年		①平成3年8月 ④淡交社 ③お筆	
	時代浄瑠璃における歴史解釈一木曾義仲の造型をめぐって一	研究	黒石陽子		國語と國文學	第68巻 第9号	①平成3年9月 ④至文堂 ③東京大学国語国文学会＝編	

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	第三章 文耕堂の作劇法ー奇抜な発想と歴史へのまなざしー 第三節 時代浄瑠璃における歴史解釈ー木曾義仲の造型をめぐってー				近松以後の人形浄瑠璃		①平成19年2月 ④岩田書院 ③近世史研究叢書18
	第二部 浄瑠璃の芸能とその周辺 第十三章 浄瑠璃と歌舞伎の交流	研究	荻田清		浄瑠璃の世界		①平成4年6月 ④世界思想社 ③阪口弘之＝編。無間の鐘の趣向について
	逆櫓の稽古	参考	戸板康二		国立劇場歌舞伎公演解説書	第174回	①平成4年10月 ④日本芸術文化振興会
	竹藪での女武者	鑑賞	田中澄江				
	大津絵の魅力	参考	鈴木仁一				
	文楽名作案内 ひらがな盛衰記	解説	林久美子		別冊太陽 日本のこころ	No.80 文楽	①平成5年1月 ④平凡社 ③阪口弘之＝編
	ひらかな盛衰記	鑑賞	児玉竜一		カブキ101物語		①平成5年7月 ④新書館 ③渡辺保＝編
	「情」の芸 *息と時間感覚 *三味線の「風」	芸談	山田智恵子	(4) 野沢錦糸	文楽談義一語る・弾く・遣う		①平成5年8月 ④創元社 ③井野辺潔＝監修、義太夫研究会＝編著。「松右衛門内の段」
	文楽のかしらシリーズ② 「傾城」	解説	吉田文雀＝解説／飯村隆＝撮影		国立劇場文楽公演解説書	第108回	①平成6年9月 ④日本芸術文化振興会 ③梅ヶ枝
	*傾城				文楽のかしら		①平成18年2月 ④日本芸術文化振興会 ③古典芸能入門シリーズⅢ
	第三部 名作の鑑賞 時代物 ひらかな盛衰記	解説	藤田洋・森西真弓		文楽ハンドブック		①平成6年12月 ④三省堂 ③平成15年3月改定版、平成23年2月第3版
	「ひらかな盛衰記」管見ー三段目に関する二、三の問題ー	研究	松崎仁		日本文学研究	第30号	①平成7年1月 ④梅光女学院大学日本文学会

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	ひらかな盛衰記	梗概	石橋健一郎		演劇界	第53巻 第2号	①平成7年1月 ④演劇出版社 ③1月臨時増刊号特大号「丸本歌舞伎」
	文楽見どころ聞きどころ名作集 *ひらかな盛衰記	鑑賞	廓正子		文楽入門 鑑賞への いざない		①平成7年6月 ④淡交社 ③淡交ムック。水落潔＝指導、青木信二＝写真
	「松右衛門内」に人間国宝のそ ろい踏み	劇評	田結荘哲治		演劇界	第53巻 第11号	①平成7年9月 ④演劇出版社 ③平成7年8月国立文楽劇場所演
	文楽評・『千本桜』と『盛衰 記』	劇評	田結荘哲治		歌舞伎 研究と批評	16	①平成7年12月 ④歌舞伎学会 ③平成7年8月国立文楽劇場所演
	豪快さと悲劇美の玉男の樋口	劇評	宮辻政夫		上方芸能	123号	①平成8年4月 ④『上方芸能』編集部 ③平成7年8月国立文楽劇場所演
	桐竹紋寿の「文楽ぞっこん」 (前編)一文楽が好きやからこ そあえて言いたいんやー	芸談	荒木志華乃＝ 聞き手	桐竹紋寿	文楽いこ会	4号	①平成10年11月 ④鈴木ななえ ③お筆の代役
411、623	上演演目に沿って～越路大夫・ 21世紀へのメッセージ *松右衛門内～逆櫓	芸談	高木浩志	(4) 竹本越 路大夫	国立劇場上演資料集	411	①平成11年9月 ④日本芸術文化振興会
411	玉男芸話1		森西真弓	(1) 吉田玉 男	吉田玉男文楽藝話		①平成19年9月 ④日本芸術文化振興会 ③国立劇場上演資料集増刊
	ひらかな盛衰記						
	簗助復帰の『酒屋』のお園	劇評	福本和生		演劇界	第57巻 第14号	①平成11年10月 ④演劇出版社 ③平成11年9月東京国立劇場小劇場所演
	三本の見取り公演を中心に一九 九年下半期の文楽一	劇評	富岡泰		歌舞伎 研究と批評	25	①平成12年6月 ④歌舞伎学会 ③平成11年9月東京国立劇場小劇場所演
	文楽のかしらシリーズ④ 「子役」「中子役」	解説	吉田文雀＝解 説／飯村隆＝ 撮影		国立劇場文楽公演解 説書	第129 回	①平成11年12月 ④日本芸術文化振興会 ③槌松

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	シリーズ・文楽まめ知識③ 箏・胡弓・八雲・タカネ	参考	高木浩志		国立劇場文楽公演解 説書	第134 回	①平成13年2月 ④日本芸術文化振興会
	文楽まめ知識 箏・胡弓・八雲・タカネ				文楽に親しむ		①平成27年4月 ④和泉書院
	文楽の名作ダイジェスト 『ひらかな盛衰記』	解説	阿部俊夫		NHK 日本の古典 芸能		①平成13年4月 ④日本放送出版協会 ③文楽鑑賞入門Ⅷ
	三、文楽合同 * 艦と棹	芸談	桐竹紋寿		文楽・女方ひとすじ おつるから政岡まで		①平成13年9月 ④東方出版 ③「逆艦」の船頭について（短文）
	* 金メダル						③（2）桐竹紋十郎の「笹引」お筆の代役
	樋口次郎【ひらかな盛衰記】	芸談	(1) 吉田玉 男・山川静夫	(1) 吉田玉 男	文楽の男—初世吉田 玉男の世界		①平成14年1月 ④淡交社 ③青木信二=写真。平成28年8月『文楽の男 初 世吉田玉男の世界』と改題して新書版刊
	次代を担う花と実	劇評	中村桂子		演劇界	第61巻 第5号	①平成15年3月（4月号） ④演劇出版社 ③平成15年2月 東京国立劇場小劇場所演
	第四章 十年に一回しか外題が かからない演目です 『国言詢音頭◎五人伐の段』 切った張ったの場面が、夏の出 し物としておもしろいです * 兄さんと二人で仕立てた思い 出の演目です	芸談	(7) 竹本住 大夫		文楽のこころを語る		①平成15年8月 ④文藝春秋 ③七世竹本住大夫略年譜（山本千恵子=構成）付 載。平成21年1月文庫版。平成7年8月国立文楽劇 場で「逆艦」を上演していた時のこと
	シリーズ・文楽まめ知識⑭ 肩板・胴串・差金	参考	高木浩志		国立劇場文楽公演解 説書	第145 回	①平成15年12月 ④日本芸術文化振興会
	文楽まめ知識 肩板・胴串・差金				文楽に親しむ		①平成27年4月 ④和泉書院
	ベテラン・中堅たちが実力発揮	劇評	中村桂子		演劇界	第62巻 第3号	①平成16年1月（2月号） ④演劇出版社 ③平成15年12月 東京国立劇場小劇場所演

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	平成15年(2003年)後半(7月～12月) 文楽評	劇評	多田英俊		歌舞伎 研究と批評	33	①平成16年8月 ④歌舞伎学会 ③平成15年12月 東京国立劇場小劇場所演(一言)
	竹本綱大夫の会 お江戸上りの舟出によせて	対談	(5)坂東玉三郎・(9)竹本綱大夫 (9)竹本源太夫)・水落潔=司会		竹本綱大夫の会プログラム	第3回	①平成16年6月 ④竹本綱大夫 ③「神崎揚屋」
	時代物・男の巻 ひらかな盛衰記	解説	高木秀樹=著 /青木信二=写真		あらすじで読む 名作文楽50		①平成17年7月 ④世界文化社 ③ほたるの本。平成27年9月加筆再構成した新版刊
	名作文楽50 ひらかな盛衰記			文楽手帖		①平成26年8月 ④KADOKAWA ③角川ソフィア文庫。『あらすじで読む 名作文楽50』を加筆修正のうえ再構成したもの	
	人形浄瑠璃における「加工行為」—浄瑠璃作者文耕堂の創作活動が生み出したもの—	研究	黒石陽子		日本文学	第55巻 第1号	①平成18年1月 ④日本文学協会 ③特集〈加工行為としての〈文学〉〉
	第三章 文耕堂の作劇法—奇抜な発想と歴史へのまなざし— 第五節 浄瑠璃作者文耕堂の特色—『三浦大助紅梅鞆』を中心に—			近松以後の人形浄瑠璃		①平成19年2月 ④岩田書院 ③近世史研究叢書18	
	『ひらかな盛衰記』小論—「源平盛衰記」の説話との関連を軸に—	研究	伊藤りさ		楽劇学	13号	①平成18年3月 ④楽劇学会
				人形浄瑠璃のドラマツルギー		①平成23年9月 ④早稲田大学出版部 ③早稲田大学学術叢書19	
	技芸員にきく 鶴澤燕三	芸談	広瀬依子=聞き書き	(6)鶴沢燕三	国立文楽劇場文楽公演解説書	第102回	①平成18年4月 ④日本芸術文化振興会

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	文楽・知識の泉①	演出	高木浩志				
	新・燕三登場、充実の『逆櫓』	劇評	廓正子		演劇界	第64巻 第9号	①平成18年5月（6月号） ④演劇出版社 ③平成18年4月 国立文楽劇場所演
	ツバメが飛ぶ春	劇評	片山剛		上方芸能	161号	①平成18年9月 ④『上方芸能』編集部 ③平成18年4月 国立文楽劇場所演
	第四章 忠義の死 *ひらかな盛衰記 松右衛門内 の段/逆櫓の段	鑑賞	葛西聖司		文楽のツボ		①平成18年5月 ④日本放送出版協会 ③生活人新書182
	*梅ヶ枝	解説	石橋健一郎		歌舞伎登場人物事典		①平成18年5月 ④白水社 ③河竹登志夫＝監修、古井戸秀夫＝編。「物語」 「出典・モデル」 ③「物語」「出典・モデル」 ③「物語」「出典・モデル」「その他」 ③「物語」「出典・モデル」 ③「物語」「出典・モデル」「演出・扮装」「そ その他」
	*延寿		岡田万里子				
	*お筆						
	*およし						
	*梶原源太景季1		石橋健一郎				
	*梶原平次景高1						
	*権四郎		岡田万里子				
	*畠山重忠2						
	*樋口次郎兼光						
	*横須賀軍内	石橋健一郎					
	燕三襲名の『ひらかな盛衰記』	劇評	福本和生		演劇界	第64巻 第11号	①平成18年7月（8月号） ④演劇出版社 ③平成18年5月 東京国立劇場小劇場所演
	文耕堂	解説	齊藤祐一		帝京日本文化論集	第15号	①平成20年9月 ④帝京大学日本文化学会
	第一部 私の履歴書 第三章 芸を磨く *情を伝える	芸談	(7) 竹本住 大夫		なほになほなほ 私の 履歴書		①平成20年12月 ④日本経済新聞出版社 ③平成7年8月 国立文楽劇場公演。初出＝「日本経 済新聞」朝刊（平成11年4月1～30日）

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	うっとり見惚れた「揚屋」	劇評	津田類		演劇界	第67巻 第7号	①平成21年7月 ④演劇出版社 ③平成21年5月 東京国立劇場小劇場所演
	第三部 衣裳の解説 小物・付属品 *丸胴 ----- *大坂手甲	解説	清水久美子		文楽の衣裳		①平成21年8月 ④日本芸術文化振興会 ③古典芸能入門シリーズⅣ。「逆櫓」の松右衛門
	『ひらかな盛衰記』のひらがな 的世界	鑑賞	橋本治		考える人	2009年 秋・ 2010年 冬号	①平成21年11月・22年2月 ④新潮社
					浄瑠璃を読もう		①平成24年7月 ④新潮社
	ひらかな盛衰記 松右衛門内の段・逆櫓の段	あらす じ	中西らつ子= マンガ		国立文楽劇場文楽鑑 賞教室公演解説書	第27回	①平成22年6月 ④日本芸術文化振興会
	若い演者、観客を育む	劇評	亀岡典子		演劇界	第68巻 第8号	①平成22年8月 ④演劇出版社 ③平成22年6月 国立文楽劇場所演
	巡業では博多座だけ 人間国宝 勢揃いの凄い座組 ユニークな 狂言建て	鑑賞	高木浩志		博多座文楽公演プロ グラム		①平成22年12月 ④博多座
	通し狂言の見直しを	劇評	富岡泰		演劇界	第69巻 第11号	①平成23年11月 ④演劇出版社 ③平成23年9月 東京国立劇場小劇場所演
	或る時代の終焉ー平成二十三年 下半期の文楽ー	劇評	志水義夫		歌舞伎 研究と批評	49	①平成25年5月 ④歌舞伎学会 ③平成23年9月 東京国立劇場小劇場所演
	文楽・知識の泉38	演出	高木浩志		国立文楽劇場文楽公 演解説書	第129 回	①平成25年1月 ④日本芸術文化振興会
	時代物・世話物・景事物 文楽を味わう一助になれば ひらがな盛衰記 松右衛門内・ 逆櫓				文楽に親しむ		①平成27年4月 ④和泉書院 ③「文楽・知識の泉38」を中心に加筆

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	住大夫復帰	劇評	宮辻政夫		演劇界	第71巻 第3号	①平成25年3月 ④演劇出版社 ③平成25年1月国立文楽劇場所演
	長期計画はどこに	劇評	福本のりこ・ 片山剛		上方芸能	188号	①平成25年6月 ④『上方芸能』編集部 ③平成25年1月国立文楽劇場所演
	資料紹介 斎藤清二郎画「文らく小道具」	資料	水田佳穂		歌舞伎 研究と批評	51	①平成26年3月 ④歌舞伎学会 ③特集〈歌舞伎と近代美術〉。早稲田大学演劇博物館が購入した斎藤清二郎画「文らく小道具」資料の紹介。「松右衛門内の段」の大津絵
	丸本離れを危惧する	劇評	河内厚郎		歌舞伎 研究と批評	52	①平成26年9月 ④歌舞伎学会 ③平成25年1月国立文楽劇場所演（一言）
	勘十郎・玉女が解説する 私が好きな演目ベスト10 ひらかな盛衰記 船頭松右衛門 （実ハ樋口次郎兼光）	解説 芸談	吉田玉女 （2）吉田 玉男）		文楽へようこそ		①平成26年4月 ④小学館 ③（3）桐竹勘十郎・吉田玉女（2）吉田玉男）＝著
	復曲の方法と手順―「粟津合戦」を例として― 表「粟津合戦の段」の音楽構成	研究	山田智恵子		義太夫節 通し狂言 の復曲		①平成28年3月 ④京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター ③京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター開設十五周年記念第44回公開講座
	『ひらかな盛衰記』序切「巴粟津合戦」復曲の意義―「人形浄瑠璃文楽」「国立劇場」「通し・立て・建て」―		神津武男				
	『ひらかな盛衰記』序切「巴粟津合戦」上演本文	本文					
	表『ひらかな盛衰記』通し・立ての上演年表	資料	神津武男				

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	『ひらかな盛衰記』かしのいろいろ	解説			国立劇場文楽公演解説書	第201回	①平成29年12月 ④日本芸術文化振興会 ③腰元お筆・山吹御前・駒若君・木曾義仲・巴御前・船頭権四郎・娘およし・倅榎松・宿屋亭主・鎌田隼人・番場忠太・船頭松右衛門実は樋口次郎兼光・船頭又六・船頭富蔵・船頭九郎作
	ひらかな盛衰記人物関係図						
	上演作品への招待	鑑賞	児玉竜一				
	芝居探訪 * 西国三十三所巡礼 * 大津絵	参考					
	若さ漲る『ひらかな』	劇評	富岡泰		演劇界	第76巻 第2号	①平成30年1月（2月号） ④演劇出版社 ③平成29年12月 東京国立劇場小劇場所演
	演目解説・あらすじ 『ひらかな盛衰記』神崎揚屋の段	解説 梗概	久堀裕朗		国立文楽劇場邦楽公演解説書	第41回	①令和1年8月 ④日本芸術文化振興会
	文楽を覗いてみよう！ * 文楽演目の楽しみ方 《ひらかな盛衰記》	鑑賞	佳山泉＝文／ 児玉寿美＝イラスト		文楽地方公演プログラム		①令和1年10月 ④文楽協会
	ひらかな盛衰記 神崎揚屋の段	解説	児玉竜一		国立劇場邦楽公演解説書	第191回	①令和1年10月 ④日本芸術文化振興会
	ビジネスで大事なことは今も昔も変わらない。 名作から学ぶ、ここぞの処世術 * ひらかな盛衰記	鑑賞			ビジネスパーソンのための文楽のすゝめ		①令和1年12月 ④実業之日本社 ③（6）竹本織太夫＝監修
	運と勇士ー『ひらかな盛衰記』における樋口の造形を巡って	研究	伊藤りさ		国立文楽劇場文楽公演解説書	第164回	①令和3年10月 ④日本芸術文化振興会
	『ひらかな盛衰記』の世界	解説					

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	「登場するかしら」から						③船頭権四郎・鎌田隼人・駒若君・船頭松右衛門 実は樋口次郎兼光・畠山庄司重忠・法印女房・腰 元お筆・辻法印・梶原源太景季・傾城梅ヶ枝
	◇技芸員にきく◇ 桐竹勘十郎 新たな目標に向けて	芸談	坂東亜矢子＝ 聞き手	(3) 桐竹勘 十郎			③梅ヶ枝
	『ひらかな』半通し	劇評	宮辻政夫		演劇界	第80巻 第1号	①令和3年12月（令和4年1月号） ④演劇出版社 ③令和3年10・11月国立文楽劇場所演
	演目解説・あらすじ 『ひらかな盛衰記』松右衛門内 より逆櫓の段	解説 梗概	久堀裕朗		国立文楽劇場邦楽公 演解説書	第45回	①令和5年8月 ④日本芸術文化振興会